

公益社団法人 日本水産学会
令和4年度第6回理事会議事録

1 開催された日時 令和4年11月19日(土)13時00分～16時07分

2 開催された場所 日本水産学会事務局(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数

総数17名、定足数9名

4 出席理事総数 16名

(Web会議システムによる出席)

東海 正、山下 洋、中田 薫、潮 秀樹、廣野育生、佐野元彦
落合芳博(第6号議案審議中13時43分から14時06分まで退席)、
小島隆人(報告事項14時55分に着席)、河村知彦、大嶋雄治、木村暢夫、
栗田 豊、奥村卓二、澤田好史、有瀧真人、吉田照豊

5 出席監事

(Web会議システムによる出席)

良永知義、野澤知世

6 出席幹事

(Web会議システムによる出席)

横田賢史、神尾道也、壁谷尚樹、團 重樹

7 オブザーバー

(Web会議システムによる出席)

古川史也、マーシー・ワイルダー(報告事項14時55分に着席)、蒲原 聡

8 議 案

決議事項

- | | |
|--------|--|
| 第1号議案 | 「会費免除承認」の件 |
| 第2号議案 | 「投稿規程の一部改正」の件 |
| 第3号議案 | 「大会規程の一部改正及び大会の開催中止に関する申し合わせの制定」の件 |
| 第4号議案 | 「大会運営規程の一部改正」の件 |
| 第5号議案 | 「日本水産学会功績賞の推薦書改正」の件 |
| 第6号議案 | 「令和4年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件 |
| 第7号議案 | 「令和4年度学会賞・論文賞授賞式の日程及び開催方法」の件 |
| 第8号議案 | 「令和5年度秋季大会の日程、場所及び委員長」の件 |
| 第9号議案 | 「Fisheries Science 89巻における会員販売促進の継続」の件 |
| 第10号議案 | 「日本水産学会誌89巻における会員販売促進の継続」の件 |
| 第11号議案 | 「International Fisheries Science Prizeの受賞候補者推薦の取扱」の件 |
| 第12号議案 | 「後援」の件 |
| 第13号議案 | 「入会承認」の件 |

報告事項

- ① 第5回理事会以降の職務遂行の状況

② その他確認事項

9 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

東海会長が、定足数の充足、及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第 29 条に基づき、東海会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「会費免除承認」 の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 2 号議案 「投稿規程の一部改正」 の件 (別紙 1)

落合編集担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「プレプリントサーバーが科学コミュニティーから認知されているかどうか判断基準はどうするのか？」

落合理事「特定の判断基準はまだ設定していない。学術分野ごとに異なるプレプリントサーバーがあるため、実際には事例ごとに判断することになる。事例が集まれば判断基準の設定が可能になるかもしれない。」

東海会長「iThenticate 等のツールを用いた投稿原稿の剽窃チェックでは、プレプリントサーバーで公表されている原稿との重複が剽窃箇所として検出されることがある。このような情報も含めてプレプリントサーバーの選定の検討を進めてほしい。」

落合理事「今後、プレプリントサーバーで公表された原稿を受け付けるための投稿規程の改正を進めることとしたい。」

第 3 号議案 「大会規程の一部改正及び大会の開催中止に関する申し合わせの制定」 の件 (別紙 2)

廣野総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「第 4 条の第 5 項として、発表をおこなわない学部学生の参加費免除を実施できるよう規定を追加した。対象とする学生の範囲については、その都度判断することを考えている。」

良永監事「申し合わせ事項 1 に、“協議の上”とあるが、協議によって合意を得ることを前提としているのか？」

東海会長「支部理事（または会長）と実行委員会が協議の上で合意できない場合は、中止や中断はできないとの理解である。」

栗田理事「支部理事と実行委員会で判断した場合、会長への報告義務はあるのか？」
東海会長「直近の理事会での報告となる（申し合わせ事項 6）。迅速な判断が求められる際に、会長とすぐに連絡が取れない場合があることを考慮した。」
佐野理事「申し合わせ事項 5 に、大会を中止した場合には寄付金等を返金するとあるが、企業等が返金に対応できない場合も考えられる。その際には、用途を特定しない寄付へと変更することとしてはどうか？」
東海会長「そのような場合には、用途を特定しない寄付として再度受け付けることで対応が可能である。」

第 4 号議案 「大会運営規程の一部改正」の件（別紙 3）

廣野総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 5 号議案 「日本水産学会功績賞の推薦書改正」の件

大嶋学会賞担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

本件について、東海会長から説明があった。

東海会長「水産学会の授賞規程については、平成 16 年に大幅な改正を実施した経緯がある。改正以前は功績賞が最も上位の賞であったが、その上に学会賞を設けることとなった。これに伴って功績賞の位置付けを見直し、学会運営に携わっていなくとも水産学の発展に寄与した人物へ広く賞を授与できるよう規程を改めた。今回の推薦書の改正によって、学会運営への貢献を社会的貢献の一部として推薦書の中に記載することを明確化することは良いと考える。」

第 6 号議案 「令和 4 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

大嶋学会賞担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。なお、各賞選考の総評および選考経緯の文章について各理事による確認の時間を設け、文言等において一部修正することになった。

日本水産学会賞

松山倫也 「有用魚類の飼育実験系構築による生殖生理学的研究と水産増養殖・資源生態学への応用」

日本水産学功績賞

落合芳博 「魚介類タンパク質の性状に関する一連の研究」

水産学進歩賞

木谷洋一郎 「魚類抗菌タンパク質と自然免疫に関する研究」

西堀尚良 「有害有毒微細藻類の増殖および沿岸生態系の動態に対するポリアミンの役割に関する研究」

渡邊龍一 「麻痺性貝毒を中心とした海洋生物毒の機器分析法導入のための基礎研究」

水産学奨励賞

谷村 文 「無脊椎動物が持つ難分解性有機物分解能からみた湿地帯の浄化機能」

水産学技術賞

伊丹利明 「LAMP 法を用いたエビの感染症診断法の確立」

内田圭一、萩田隆一、向井 徹、今井圭理、清水健一、八木光晴、山中有一、三橋

廷央、磯辺篤彦、黒田真央

「我が国沖合海域における海洋プラスチックごみ調査の規準化およびデータベース整備」

安元 剛、廣瀬美奈

「海洋生物のバイオミネラリゼーションを模した新規 CO₂ 鉱物化技術の開発」

山本義久 「現場適用可能な海産魚介類の閉鎖循環飼育技術の開発と社会実装」

第 7 号議案 「令和 4 年度学会賞・論文賞授賞式の日程及び開催方法」の件

大嶋学会賞担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、次の通り開催することを出席理事全員一致で可決した。

日 程：令和 5 年 3 月 30 日

場 所：東京海洋大学品川キャンパス（春季大会会場）

開催方法：対面

本件について、東海会長から授賞式をオンラインで配信することを事務局と検討する旨の説明があった。

第 8 号議案 「令和 5 年度秋季大会の日程、場所及び委員長」の件

栗田東北支部担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、次の通り開催することを出席理事全員一致で可決した。

日 程：令和 5 年 9 月 19 日～22 日

場 所：東北大学（宮城県仙台市）

実行委員長：大越和加

第 9 号議案 「Fisheries Science 89 巻における会員販売促進の継続」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 10 号議案 「日本水産学会誌 89 巻における会員販売促進の継続」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「例年何件ぐらいの申し込み数があるか？」

廣野理事「例年 5 件程度である。」

第 11 号議案 「International Fisheries Science Prize の受賞候補者推薦の取扱い」の件

佐野国際交流担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、理事からの推薦、または国際交流委員会からの推薦をもとに、国際交流委員会と会長の議を経て推薦者を検討し、推薦の決定は東海会長に一任することを出席理事全員一致で可決した。なお、選考結果について次回理事会で報告することとなった。

第 12 号議案 「後援」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、次の後援を出席理事の賛成多数で可決した。

① 市民公開シンポジウム

「有明海の生物とそれを取りまく環境の現況」

主 催 木下 泉（沿岸生態リサーチセ）・川村 嘉応（佐賀大）・田原 大輔（福井県

大)

後 援 沿岸海洋研究会 他 10 団体 (予定)
日 程 令和 4 年 11 月 20 日
場 所 米原市コンベンションホール (滋賀県米原市)
希 望 後援
負担金 なし

② 第 38 回国際生物学賞記念シンポジウム「魚の生物学：その生態、進化と発生」

主 催 日本学術振興会, 自然科学研究機構基礎生物学研究所
後 援 日本動物学会 他 2 団体
日 程 令和 4 年 12 月 17 日・18 日
場 所 自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンター (愛知県岡崎市)
希 望 後援
負担金 なし

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「①の市民公開シンポジウムについて、開催趣旨のなかで過去の裁判の判決に触れるなど政治的要素が含まれている。水産環境保全委員会と水産政策委員会に意見を求めたところ、水産環境保全委員会は全会一致ではないがシンポジウム開催の必要性を認めるとの意見、水産政策委員会は特に問題はないとの意見であった。本シンポジウムが扱うような社会問題については、科学的見地から議論を進める必要性があり、学会の後援のもとで科学的議論の推進を図ることには賛成である。」

大嶋理事「最終的にどのような提言をまとめて社会に発信するのが重要である。」

東海会長「社会問題に対して科学的議論の推進を図ることも学会の役割である。」

中田理事「シンポジウムにおいて科学的議論が行われることを期待し、後援してはどうかと考える。」

山下理事「本シンポジウムを開催することで科学的な議論が進展する意義が認められる。後援してもよいのではないかと考える。」

東海会長「科学的議論が進展することを期待して本件を後援することとしたい。」

第 13 号議案 「入会承認」の件

廣野総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

(報告事項)

① 第 5 回理事会以降の職務執行状況

・会長

以下 1~4 の項目につき、東海会長から、次の報告があった。

- 1) 水産・海洋科学研究連絡協議会が 12 月 9 日に開催予定であり、学会活動の紹介、支部例会などの活動を報告する予定である。
- 2) 11 月 3・4 日に韓国水産科学会が開催され、ビデオメッセージを送付した。
- 3) 11 月 16・17 日に富山県で開催された全国水産試験場長会全国大会に参加した。蒲原 聡会員 (愛知県水産試験場場長) が会長指名理事候補者となったことを報告するとともに、日本水産学会誌 1 月号に全国水産場長会として「水産研究のフロン

トから」の寄稿をいただくことの御礼、今後各水産試験場の連載開始についてのお願いを行った。本学会会員のうち各県の試験場等に勤務する正会員は約 485 名（全正会員 2580 名のうち 19%弱）にのぼり大きな割合を占めていることから、今後の連携強化方法を模索中である旨を伝えた。

- 4) 朝日新聞社主催の「海とさかな自由研究・作品コンクール」の表彰式が 12 月 10 日に開催される。本コンクールには日本水産学会会長賞があり、選出に参加している。

・庶務関係

以下 1～3 の項目につき、廣野担当理事から報告があった。

- 1) 資格喪失者（会費未納）のうち、会費を納入した次の者を退会者へと取り扱いを変更した。
泉澤光紀（正会員、令和 2 年度資格喪失）
原 研治（正会員、令和 3 年度資格喪失）
- 2) 学会事務職員の期末手当について。
- 3) 以下の協賛 2 件について、「共催、協賛、後援の取り扱いの申し合わせ」の 3) を適用して承認した。

① 海洋調査技術学会第 34 回研究成果発表会

主 催 海洋調査技術学会
協 賛 海洋海底工学フォーラム・ZERO 他 20 学協会
日 程 令和 4 年 11 月 8 日・9 日
場 所 東京海洋大学品川キャンパス楽水会館（東京都港区）
希 望 協賛
負担金 なし

② 第 60 回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会
協 賛 応用物理学会 他 64 学協会
日 程 令和 5 年 7 月ころ
場 所 東京都内会場またはオンライン開催
希 望 協賛
負担金 なし

・企画広報関係

以下の項目につき、潮担当理事から、次の報告があった。

- 1) 令和 4 年 11 月 1 日に企画広報委員会を開催した。
- 2) 令和 4 年度日本水産学会秋季大会において日水誌冊子体に関するアンケート調査を行った。

・財務関係

佐野担当理事から、令和 4 年 10 月分より非常勤職員の給与の時間単価を 1,150 円から 1,200 円に引き上げた旨の報告があった。東京都の最低賃金が 10 月から上昇したことに加え、昨今の物価上昇を考慮して判断した。

・編集関係

落合担当理事から、9 月 30 日に第 3 回編集委員会を開催し、プレプリントサーバー

で公開済み原稿の *Fisheries Science* での受付について、日本水産学会誌と *Fisheries Science* の *Aims and Scope* についての議論を行った旨の報告があった。

・学会賞関係

大嶋担当理事から、当学会から推薦した阪井裕太郎会員の日本農学進歩賞の受賞が決定し、11月25日にオンラインで授賞式が開催されるとの報告があった。

・シンポジウム関係

河村担当理事から、第3回シンポジウム企画委員会を11月11日～15日にメール開催し、令和5年度日本水産学会秋季大会において、次のシンポジウム1件とミニシンポジウム1件の開催を承認した旨の報告があった。

① シンポジウム

題名：水産における昆虫の飼料利用の現在と未来

企画責任者：安藤忠（水産機構）・三浦 猛（愛媛大農）

開催方式：ハイブリッド

希望開催年月日：令和5年3月28日

② ミニシンポジウム

題名：知床周辺海域のホットスポット形成：海洋環境から高次捕食者まで

企画責任者：三谷曜子（京大野生研）・山村織生（北大院水産）

開催方式：対面

希望開催年月日：令和5年3月27日以外

本件について次の質疑応答があった。

東海会長「ミニシンポジウムは対面での開催のみか？」

河村理事「まだ詳細については決まっていない。」

東海会長「多くの人に聞いてもらうためにハイブリッド方式での開催も検討してほしい。」

・出版関係

山下担当理事から、*e-水産学*シリーズの第3巻が10月に出版され、現在第6巻までの出版準備を進めている旨の報告があった。

本件について次の質疑応答があった。

栗田理事「*e-水産学*シリーズは企画から出版まで2年近くを要し、時間がかかるとの意見がある。」

山下理事「出版委員会に時間短縮の要望があったことを伝える。」

・水産技術誌監修関係

有瀧担当理事から、水産技術誌監修委員会を11月5日に開催したこと、年2回の出版うち1巻を8月31日に発刊したこと、残る1巻については年内の出版に向けて順調に編集が進んでいることの報告があった。

・国際交流関係

佐野担当理事から、世界水産学協議会（WCFS）の規約改正があり、国際交流委員会で検討した上で改正に賛成する意を伝えたこと、2024年にシアトルで大会（World Fisheries Congress）が開催される予定であり、メインテーマである「Fish and Fisheries at the Water-Energy-Food Nexus」に関連するサブセッションの提案を検討中であること、令和5年度日本水産学会春季大会では英語セッションを開催予定で

あることの報告があった。

- ・水産教育関係

中田担当理事から、9月26日に水産教育推進委員会を開催し、コロナ終息後の令和4年度前期における授業人数の扱いや授業形態の変化などの、授業実施の状況に関するアンケートの調査結果を取りまとめ中である旨の報告があった。

- ・水産政策関係

八木担当理事に代わって東海会長 特になし

- ・漁業・資源管理関係

小島担当理事から、漁業懇話会委員会の委員の交代・留任について調整を進めていること、令和5年度日本水産学会春季大会において漁業懇話会委員会を開催し、洋上風力発電と漁業協調についての講演を企画中であることの報告があった。

- ・水産利用関係

落合担当理事から、9月30日に第2回水産利用懇話会委員会を対面開催し、同時に開催した第1回講演会では52名の参加があったこと、生分解性プラスチックと水産業の脱プラチック化に関する第2回講演会（2月20日に東京大学で開催予定）を企画中であることの報告があった。

- ・水産増殖関係

佐野担当理事から、令和5年度日本水産学会春季大会に合わせて「タコ類の増養殖の現状と問題点」と題したシンポジウム（企画責任者：東海大学秋山信彦会員）を3月28日の午後に対面で開催予定であることの報告があった。

- ・水圏環境関係

大嶋担当理事から、令和5年度日本水産学会春季大会に合わせて、水産環境保全委員会が企画するシンポジウム「近年の日本沿岸における赤潮発生の特徴と新たな対策を考える」（タイトル案）を3月28日9時30分から対面で開催予定であることの報告があった。

- ・男女共同参画関係

中田担当理事から、令和5年度日本水産学会春季大会に対面でランチョンセミナーを開催する予定であり、ジェンダー関係の無意識のバイアスを話題として取り上げ、本学会における女性会員の割合の変化や、シンポジウムオーガナイザーの女性割合等の情報を提供したいと考えていることの報告があった。

- ・水産学若手の会関係

潮担当理事から、9月22日に水産学若手の会委員会をオンラインで開催し、令和4年度日本水産学会秋季大会のシンポジウムの参加者数が40名程度であったこと、発表を行わない学部学生の無料参加の周知を進めることを議論したことの報告があった。また、同委員会において、Twitterによる情報発信のためのアカウント運用方針を再確認し、Twitterアカウントを11月16日に運用開始したことの報告があった。

- ・社会連携関係

木村担当理事 特になし

- ・将来計画関係

山下担当理事 特になし

- ・北海道支部、地域連携関係

木村担当理事から、令和4年11月26日に北海道支部大会をオンラインで開催する予定であるとの報告があった。

・東北支部、地域連携関係

栗田担当理事から、令和4年10月15日に支部大会をオンラインで開催し73名の参加があったこと、同時に開催したミニシンポジウム「東北地方における磯根資源の変動と現状：近年の高水温傾向を中心として」において8題の講演があったこと、故後藤友明会員の業績を振り返る企画（3題）の後、一般発表10題の発表があったことの報告があった。また、全国水産海洋高等学校生徒研究発表の東北地区大会（10月28日）に参加し、最優秀発表を選出して東北支部長優秀賞を授与したことの報告があった。

・関東支部、地域連携関係

八木担当理事に代わって、東海会長から、令和5年度春季大会の準備状況と本大会では交歓会を開催しないことの報告があった。また、冊子体の要旨集については千円の追加費用を支払うことで配布することとし、PDF版の要旨集は無料で配布すること、参加費は現金ではなく銀行振込かオンライン決済に限定すること、高校生の口頭発表をオンラインで開催すること、英語セッションを開催すること、50名の学部学生の無料参加枠を設けること、12月上旬に大会ホームページを開設予定であることの報告があった。

・中部支部、地域連携関係

奥村担当理事から、支部大会と研究発表を12月17日にオンラインで開催する予定であり、学会ホームページに掲載案内を掲載して発表を募集中であることの報告があった。

・近畿支部、地域連携関係

澤田担当理事から、令和4年9月24日に第1回支部例会をオンラインで開催したこと、社会連携推進のために研究紹介・相談会を設定したところ、所属する全ての県の水産試験場（または自治体）、漁業協同組合1件、公的研究機関1件、大学1件、および高校3件の相談会への参加があり、活発な意見交換が行われたことの報告があった。また、12月3日の支部例会では、特別講演と研究発表を実施する予定であるとの報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

有瀧担当理事から、支部大会を令和4年12月26日・27日にオンラインで開催する予定であり、研究発表35題と高校生のポスター発表2件を予定していることの報告があった。

・九州支部、地域連携関係

吉田担当理事から、支部総会と研究発表会を1月7日13時から対面で開催する予定であり、研究発表の募集を開始する予定である旨の報告があった。また、令和4年度日本水産学会秋季大会の収支の概要についての報告があった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

山下担当理事 特になし。

・財務検討委員会（特別委員会）

佐野担当理事から、銀行口座開設方法の検討について、インターネットバンクの使

用を検討しており、2月の理事会までに方針を決定する旨の報告があった。また、外国出張にかかる旅費の高騰に対応するため、旅費支給の見直しを進める特別委員会を立ち上げており、2月の理事会で承認が得られれば3月からの適用を予定していることの報告があった。

本件について次の意見があった。

東海会長「インターネットバンクを用いた学会事務局による各支部・委員会の予算管理を運用するためには、新たに規則・規程等を設ける必要があるので検討を進めてほしい。」

② その他確認事項

(1) 事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

廣野総務担当理事から、事業計画・予算書および事業報告・決算報告の提出日程についての説明があり、締切りを厳守するよう要請があった。

(2) 次回の理事会について

廣野総務担当理事から、次回の理事会は令和5年2月4日（土）13時からWeb会議システムにて開催するとの説明があった。また、令和5年度第1回理事会の日程を3月27日に変更することとなった。

以上をもってWeb会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、16時07分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和4年11月19日

公益社団法人 日本水産学会
議長 会長（代表理事）

監 事

監 事